〔新猿樂記〕七御許者、食飲愛酒女也、所好何物、〇略中精進者、腐水葱、香疾大根、春鹽辛納豆、油濃茹物、面穢松茸、

〔枕草子一〕ことぐなるもの

おもはん子を法師になしたらんこそは、いと心ぐるしけれ、さるはいとたのもしきわざを、たゞ木のはしなどのやうに思ひたらんこそいとおしけれ、さうじもの、あらきをくひ、〇略下

〔大上臈御名之事〕女房ことば

一しやうじん　御しやうじ物

〔鹿苑日録〕慶長八年七月十五日、未明ニ供佛餉、出洛先至豐光、〇略中各々閑話、板倉伊賀守ヨリ豐光へ有使者、只今相公〇德川家康豐光へ出御ト云々、各々不堪驚愕、則至豐光各用意、先油物ノ御菓子、御四方ニ敷杉原獻之、次ニ葛索麵御相伴ニ常素麵、又葛索麵、麩ノ吸物、御酒一返、其間ニ彈正殿〇淺野長改與相公御碁一番有之、此間ニ御膳用意、湯漬本膳、

御懸盤

豆角香豆麵　御飯　二煎麩カキ薇椎茸　集汁　三海松ユウカウ梅浸ユウカウ酢煎昆布

葉盛

冷汁海雲　御酒二返　御菓子水餅油物薄皮栢桃

御茶

御相伴衆足打本膳　豆角香豆麩　飯　二根若梅浸ユウカウ煎昆布酢香物　集汁　酒二返　御菓子桃水餅

八月朔、卯頭ニ赴伏見、先至豐光、〇略中於豐光賜齋、三寶院殿御相伴、圓光、予亦備其員、推弊過予者乎、本膳ズイキ、煎昆布、ヒヂキニ口チ麩、煎昆布、ユウガウ、ヒユ、香物、酢、本二何モ足打、菓子桃、中酒三返、齋了悤々トシテ登城、十五日、至寺志州、豐光東紀入、圓光、床五兵衞如水座敷半ニ、筑前守光駕、先飯汁蔓草アエマゼ、青豆、煎麩、煎昆布、田樂、酒五返、後又出粥、此時又酒一返、則如水屋形船ニ乘、碁打之、本因坊亦乘、〇略中申尾酉頭ニ至大阪、各々赴住吉、可賞今夜月ト云々、各々同之、予者直至住吉、調